

4 大動脈弁逸脱のMRI診断：経胸壁エコーとの比較

吉村 宣彦・堀井 陽祐・鈴木 博*
長谷川 聡*・沼野 藤人*
新潟大学医歯学総合病院放射線科
同 小児科*

【目的】

1) 心室中隔欠損に伴う大動脈弁逸脱(右冠尖と無冠尖)のMRI所見を明らかにする。

2) 経胸壁エコーと比較する。

【対象・方法】MRIとエコーが6ヶ月以内に施行された48例をretrospectiveに検討した。男22例、女26例、2～38歳、平均12歳。23例で手術が施行された。使用機種：MRI Siemens Magnetom Vision 1.5T。Pulse sequence：心電図同期 spin echo T1WI, gradient echo cine image。エコーは東芝 SSA-380A, 小児循環器医が施行。手術症例23例では、VSD type別にMRI・エコー所見の一

致率を、 2×2 カイ2乗検定を用いて比較検討した検討した。P < 0.05を有意とした。

【結果】右冠尖逸脱39例。spin echo imageとcine image陽性32例、spin echo imageのみ陽性1例、cine imageのみ陽性6例。無冠尖逸脱3例。spin echo imageとcine image陽性2例、spin echo imageのみ陽性0例、cine imageのみ陽性1例。右・無冠尖逸脱2例、spin echo imageとcine image陽性1例、spin echo imageのみ陽性0例、cine imageのみ陽性1例、逸脱なし4例。VSD type別にみたMRI・エコーの一致率の比較では、type Iでは17例全例一致。type IIでは、一致2例、不一致4例であり、type IIでは有意に一致率が低かった。

【結論】大動脈弁逸脱のMRI所見を経胸壁エコーと比較し、報告した。VSD II型では、一致率が有意に低かった。